

## ラブレターの研究



### 天皇陛下と皇后陛下の恋文

天皇ともなると恋文も和歌です。和歌で恋文をもらっても困る人もいますよね。読みにくいなら飛ばしてもいいです。

#### ★（上皇陛下と美智子さま）

「語らひを重ねゆきつつ 気がつきぬ われのこころに開きたる窓」天皇（当時は皇太子）

「たまきはるいのちの旅に吾を待たす 君にまみえむあすの喜び」正田美智子さん

美智子皇后の歌

思ひ描く小金井の里麦の穂揺れ 少年の日の君たちたまふ 昭和49年

小金井は中等科時代 疎開先の小金井にいた

#### ★ 天皇と雅子さま

我が妻と旅の宿より眺むれば、さざなみはたつ近江の湖に 天皇

君と見る波しずかなる琵琶の湖 さやけき月は水面おし照る 雅子 結婚直後

大空に舞ひたつ鶴の群れ眺む 幼な日よりのわが夢かなふ 天皇 結婚直前

君とゆく那須の花野にあたらしき秋草の名を知りてうれしき 平成13年 流産後

#### ★（昭和天皇と香淳皇后）

天皇「なつかしき猪苗代湖を眺めつつ若き日を思ふ秋のまひるに」昭和36年

「松苗を天鏡台にうえをへて、猪苗代湖をなつかしみ見つ」 昭和45年

（大正13年に結婚 夏を一カ月猪苗代湖の天鏡閣で過ごす）

皇后「みづうみのむかひの岸に舟はせてみ馬すがたの君をむかへぬ」

#### ★大正天皇

「今ここに君もありなば、ともどもに 拾わむものを 松の下の露」

婚約者 九条節子に松露を贈るとて。

★明治天皇

「言の葉にこころの底をもらしかねしのびてつらき思ひなりけり」

昭憲皇太后（明治天皇の夫人）

「時ならぬ 雪ときくにも たれこめてまします君をおもひやるかな」



★美空ひばり・小林旭 昭和の大スターも相聞歌を歌った

名前くらいは聞いたことがあると思います。昭和の大スターも結婚するとき和歌を読みました。

美空ひばり 我が胸の人に知らざる泉あり つぶてをなげて乱したる君

小林旭 石を持ち投げてみつめん水の面 音たかき波立つやたたずや



裕次郎とまき子夫人



ひばりと旭

## 裕次郎の恋人への「謝罪」の手紙

石原裕次郎も昭和の大スターです。都知事だった石原慎太郎の弟さん。  
元女優のまき子夫人との交際時代、こんなラブレターを書いている。

僕だけのくマコ、ハイく こんな冷い戦争もういやです。僕は本心でさっきマコにあやまった積りなのに……。昼ゴハンの時は確に僕が悪かったのです。昨日からあんなに心配かけておきながら、あんな事言って我儘ばかりゴメンナサイ。

マコが来て、ラジオ聞いている間、マコの部屋でお風呂に入り、いまくるか、いまくるかと待ってましたが、とうとう来なかった。

部屋に帰ってマコの本ずっとずっと見てました。無性に淋しくなって、ビール一本のみました。そして、マコと僕の唄、誰もいなかったので大声で何曲も……。何回も唄いました。でもマコは来なかった。マコがおひる泣いた様に僕も少し泣きました。唄ってく唄いながら泣きました。何んでこんなにならなければならないの？皆々僕が悪いのですね？僕は太力者！マコの気持ちわたりすぎる程わかってるの... だから我儘ばかり言うんだ！逢いたくてくとせうがない。しめ殺す程抱きしめたいけど僕の足がマコの部屋に 向かないの……。

一人ぼっちで燃えしきるダンロの火とニラメッコ……。塩っぱい涙が口に這入って来ると... 泣いたマコの目にキスした味を想い出す。

日本近代文学に輝く歌人は不倫をしていました。

## 歌人・斎藤茂吉の不倫の恋文 27歳年下へ

「なぜこんなにいい女体なのですか」 弟子のふさ子さんにこんな文章をだしています。



○ふさ子さん! ふささんはなぜこんなにいい女体なのですか。何ともいへない、いい女体なのですか。どうか、大切に、無理してはいけないとおもひます。玉を大切にすうやうにしたいのです。ふさ子さん。なぜそんなにいいのですか。○写真も、昨夕とつて来ました。とりどりに美しくてたゞうれしくてそわそわしてゐます。併し、督は今度からは結んで下さい。又お笑なるならば思ひきつて笑って下さい。丁度私のまへでお笑になるやうに笑って下さい。さうでないなら、すましてください。○私が欲しいのですから、電通で、もう一つとつて下さい。代は私が出します。写真は幾通あつてもいいものです。ふさ子さんの写真は誠に少い。ほかのお嬢さん方は年に十はとりますよ。今度の御写真見て、光がさすやうで勿体ないやうにもおもひます。近よりがたいやうな美しさです。(同十一月二十六日)

○ふさ子さん、何といふなつかしい御手紙でせう。実際たましひはぬけてしまひます。あゝ

恋しくてもう駄目です。しかし、老境は静寂を要求します。忍辱は多力也です。忍辱と恋とめちやくちやです。○ふさ子さんの小さい写真を出してはしまひ、又出し ては見て、為事してゐます。今ごろはふさ子さんは寝ていらっしやるか。あのかほを 布団の中に半分かくして、目をつぶって、かすかな息をたててなどとおもふと、恋し くて恋しくて、飛んででも行きたいやうです。あゝ恋しいひと、にくらしい人。(同十一月二十九日)

若人の涙のごときかなしみの吾にきざすを<sup>すく</sup>済ひたまはな  
年老いてかなしき恋にしづみたる西方のひとの歌遣りけり  
まをとめと寝覚めのとこに老の身はとどまる術のつひに無かりし

## 詩人 金子光晴が22歳の女性にだした不倫の手紙

日本の現代詩人の中でも、有名な詩人の金子光晴も 不倫の手紙をだしています。

庭には光がさしてゐる。ふれるものがすべてなまなまくしく、ふれる恐怖と、新鮮さ で、ふれあひ、そよぎあってゐる。生命の欣びといふよりも、生命の宿命の奇怪さに 達してゐるようだ。

僕がのんだ君の樹液。——僕の内部の萌芽と、君のひこばえ。それがうんだ二人の 間の愛情は、持続しがたい愛の方則の上で、二人を永く結びつけるやうに思はれる。 それは、お互ひのかけ離れたものの新鮮さかもしれない。とにかく僕は、君の愛情の 洪水のなかで、背丈が足りなくなりさうになってゐる。そんな幸福は、たゞ物語りの 上とだけおもつてゐたのに。その陶醉を信じがたくなってきてゐる世の中で、僕らは。

この手紙はいかにも詩的な文章だが、その後、話しかけるような文体になっていく。

小さいかあいかい兎さん。 おにーは少しも変らないよ。昨日来たさうだ。僕は三日三夜の徹夜で薬をのんで昏 睡してゐた(茶の間のわきで)。

かへつたさうだが、ウチのものが、君に別れるやうに言ったかもしれない。僕の心 を歪めて伝へたと思ふ。しかし僕を信じて下さい。「こんど君のところへゆく日は永久にゆく日だ。いろく考えすごしをしないでたゞ 僕を信じて、いづれにしる今月中で片付く。それからもうウチのものに君が交渉する 必要はない。過程としていろくなことがあつてもまちがへずに。

く





## あの画家・竹久夢二が彦乃に宛てた手紙

竹久夢二というと、絵をみれば、あの人だとわかるでしょう。この人は自分に憧れてくる絵の弟子に次々手をだします。彦乃さんは、18歳。夢二より12歳年下でしたが、夢二が絵を売る店に絵をみにいって夢二に見初められ、すでに婚約していたにも関わらず、恋文をだします。

大正四年(一九一五)の夏 「たましひのぬけたひとのやうに上野広小路をあるいて、ぼんやりうちへ帰るには帰った けれど、心身にそはず、床のうへあふむけになつて、はげしい愛着にぢつとしてゐられない のでした。蚊がぶんぶんくとせめるのも好い刺撃(激)です。

こうして手紙のくる日までまつてゐるわたしかとおもへば、この日頃のわたしがあはれ まれるあなたもいとしい、かはいい、わたしもかなしい。なんといふ、かなしい、寂しい恋であらう。おもいまいくゆくすえのことは誰が知ろう。こうしてまつてこがれてある今日の日が事実なばかりで、きのふも、あすも知らない。「それにしてからが、いまのいまのこの心のおきどころのわびしさ。心のひまのないこの頃のやうでは、わたしは死ぬであらう。とりとめて、しっかりと、何も私は握つてゐない不安、やはり、ただひとりのおもふ

ひとがなくては、生きてるられないわたしをおもふ。

もっとくおどりがれ、かなしめ、涙よ、太陽の光のごとく、降れかし。はだかのま、  
相抱いて、泣かんかな。

大正五年(一九一六)十二月下旬 一昨日から「伊勢」のために図書館通ひをしてるます。あんまり好い参考品がなくて困つてゐます。彦ちゃんの画いた写本はやっぱり絵も好い構図で助りました。下巻があったらと惜しい気がします。時代錯誤でやっちまふつもりです。春になれば美術学校へ行って 絵巻を写すことになつてゐます。「その後はどうしてるの。忙しいのだとも、いろんなむつかしいことがあるのだともおもつてあるけれどたよりがないと気にかゝる。甲州行はどんな風。なんだか此頃はむやみと枕がさびしい。村瀬はとりあへず近所へ下宿させ不二彦と二人で暮してゐます。ちこと二人でねてるても、この子を愛しいとおもふにつけ、やっぱり愛情のやりばがほしい。甲州へゆくなら、こちらへ来られないことはないとおもふに。考へのうへではいつも近いとおもふけれどやっぱり手にふれるやわ肌は遠い。もの、本にある江戸の街をつく娘のやうに遠くなつかしい。理窟はなしに逢ひたい。甲州ゆきにかこつけて来られるなら切符をおくる。それでなければこちらから出かけても好い。ほんとにちよつとでも逢ひたい。こんなに切ないおもひで淋しがったことは私はおぼえない。手紙でもよこして呉れなければ随分困るやうにおもはれる。話したいことよりも何よりもたゞ逢ふために逢ひたい。

彦乃が夢二に宛てた手紙

そんなにだだをこねるものではありません。.....信じてまかして下さい。私のむねの中にあるんですから、こんだめなら、そんないくちなしなら死んぢまひます。ききわけてね。



塚本文(後の芥川夫人)



芥川龍之介

## 龍之介が文に宛てた手紙

あの芥川龍之介は、子供のころからの幼なじみと結婚しました。素直な手紙です。

文ちゃん。僕はまだこの海岸で本をよんだり原稿を書いたりして暮してゐます。何時頃うちへかへるかそれはまだはつきりわかりません。が、うちへ帰ってからは文ちゃんにかう云ふ手紙を書く機会がなくなると思ひますから奮発して一つ長いのを書きます。ひるまは仕事をしたり泳いだりしてゐるので、忘れてゐますが夕方や夜は東京がこひしくなります。さうして早く又あのあかりの多いにぎやかな通りを歩きたいと思ひます。しかし東京がこひしくなると云ふのは東京の町がこひしくなるばかりではありません。東京にある人もこひしくなるのです。さう云ふ時に僕は時々文ちゃんの事を思ひ出します。文ちゃんを貰ひたいと云ふ事を、僕が兄さんに話してから何年になるでせう。(こんな事を文ちゃんにあげる手紙に書いていいものかどうか知りません。)貰ひたい理由はたった一つあるきりです。こうしてその理由は僕は文ちゃんが好きだと云ふ事です。勿論昔から好きでした。今でも好きです。その外に何も理由はありません。僕は世間の人やうに結婚と云事と いろいろな生活上の便宜と云ふ事と を一つにして考へる事の出来ない人間です。ですから これだけの理由で兄さんに文ちゃんを頂けるなら頂きたいと云ひました。さうしてそれは頂くとも頂かないとも文ちゃんの考へ一つできまらなければならないと云ひました。

僕は今でも兄さんに話した時の通りな心もちでゐます。世間では僕の考へ方を何と笑つてもかまひません。世間の人間はいい加減な見合ひといい加減な身もとしらべとで造作なく結婚してゐます。僕にはそれが出来ません。その出来ない点で世間

日本一の美文家・須賀敦子のイタリア人恋人への手紙



須賀敦子さんを知っている人は少ないかもしれません。イタリアで過ごしたエッセイストで日本で一番の美文と呼ばれた時期もありました。その人がイタリア人の夫にだした手紙です。

大切なペッピーノ、 ・どこから手紙をはじめたらいいのかしら。私がミラノにいるあいだにあなたがしてくれたあらゆることでもうすっかり胸がいっぱいです(そして私にとってあらゆる意味 であなたがあなたでいてくれたことで)。(中略) .....あなたと一緒にいる時、ものごとはどこまでも単純になって、私はまるでずっと 前から探していたことを見つけたような気がするのです。こんな言い方をしてごめん なさい。あなたは安らぎを与えてくれるのです、それとも、これは本当の安らぎでは ないのでしょうか?(中略) .....ペッピーノ、私にはなぜ、友人たちがいうように、自分の人生を決めつけなければならぬのか、何者かにならなければならぬのか、わかりません。**私は小さく、誰でもない人間になりたい、たいしたことなく、大きなことをいわない人間に。**それは私が望んでないからではないのかもしれない。私にはそれが、自分が生きるためのたった一つのあり方のように思えるのです。これ以上書き続けるにはすっかり遅く なってしまいました。もう一時半です。明日の朝、ルーピ神父と海に行きます。もう。あなたと次に会える日を指折り数えはじめています。それでは、大切なペッピーノ、お母さんによろしく、くれぐれも、そしてアルドにも。お母さんに、私があなたの家 でどんなにしあわせか伝えて。(中略) あなたに会えて私がどんなにしあわせか、あなたには本当にはわかってないのよ。あまり働きすぎないように、ゆっくりと休むよう にして、お昼寝もするように! どれもするように。(昭和三十五年四月二十四日付)

愛情をこめて、あなたの、あっこ

## 元気がでる詩人・茨木のり子の夫を讃える詩

詩人茨木のりこさんは下記の「自分の感受性ぐらい」で有名な、とても元気の出る詩を書く詩人です。

### 自分の感受性ぐらい

ばさばさに乾いてゆく心を  
ひとのせいにはするな  
みずから水やりを怠っておいて  
気難しくなってきたのを  
友人のせいにはするな  
しなやかさを失ったのはどちらなのか  
苛立つのを  
近親のせいにするな  
なにもかも下手だったのはわたくし  
初心消えかかるのを  
暮らしのせいにはするな  
そもそもが ひよわな志にすぎなかった  
駄目なことの一切を  
時代のせいにはするな  
わずかに光る尊厳の放棄  
自分の感受性ぐらい  
自分で守れ  
ばかものよ  
茨木のり子

詩集「自分の感受性ぐらい」（1977刊）所収

そして、彼女が書いた亡き夫への恋文は素晴らしい文章でした。本当は旦那さんも、生きているうちにこんなことを妻が書いていると知りたかったでしょうね。



パンツ一枚で

うろうろしたって 品のあるひとはいるもので 暮しを共にした果てに 相棒にそう思わせるのは 至難のわざでありましょうに

らくらくとあなたはそれをやってのけた 肩ひじ張らず、ごく自然に

ふさわしい者でありたいと おもいつづけてきましたが 追いつけぬままに逝かれてしまっ

て たったひとつの慰めは あなたの生きて在る時に その値打ちを私がすでに知っていた  
ということです

部分

日に日を重ねてゆけば 薄れてゆくのではないかしら

それを恐れた。 あなたのからだの記憶

好きだった頸すじの匂い

やわらかだった髪の毛

皮脂なめらかな頬

水泳で鍛えた厚い胸廓

元字型のおへそ

ひんぴんとこぶらがえりを起したふくらはぎ

爪のびれば肉に喰いこむ癖あった足の親指

ああ それから

もっともっとひそやかな細部 どうしたことでしょう

それら日に夜に新たに

いつでも取りだせるほど鮮やかに

形を成してくる。

あなたの部分

# レズビアン作家吉屋信子の恋文

元々日本はLGBTに寛容な歴史のある国ですが、作家吉屋信子は早くからカミングアウトして秘書にこんな手紙をだしています。



吉屋信子から門馬千代への手紙

鈍い感じの田舎町よどんだ空気 へんな会場——その他いろく私を憂ウツにするの に十分でした。

たった一日、あ、たった一日 都に千代ちゃんを残して離れてるた時間がどんなに切 ないものだったか! 私今日 はつきりと あまりにもはつきり愛する人への強い思慕を見出しました 私の千代ちゃん——火曜日にはきつとお顔を見せて下さい。けれど——もし来られるのなら今晚(月曜)でも 一寸 一寸 来て会って下さい けっして悪止めせずに直ぐにお ^ 返ししますから でも無理をする様だったら我慢しますけれど——取材のために長崎へ旅 立つ日が目の前に迫ってきました しばらく会はぬ旅の日のやるせないもの悲しい気持：ちが思ひやられて寂しい! だから会へる時にはたくさんたくさん会っておきたいのです。

わがままばかり言って かんにんして頂戴

ああ 夕に別れを告ぐることなく 一つ屋根の下に暮す日は いつのことか! 男と女 ならば易きことなれど 御身も女吾も女——でも千代ちゃん 二人の心が定まってる へすれば久遠の愛を結実させる日も遠いことではないでせう

千代ちゃん どんなにどんなにあなたを愛してあることかどうか わたしを信じ て 今しばらく堪へて頂戴ね 二人で頭をしぼって 共に暮すことの出来る道をさがし求 めませうよ」私の千代ちゃん 今、午前一時です 四月十五日夜半

★さて、いろんな手紙がありました。みなさん、誰からの手紙がほしいですか?あるいは誰からの手紙は絶対ほしくないですか? 自由に作文してください。

くれぐれも名前を忘れないように。また連絡先も。